発行日　2012 年 2 月　No.41

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

JEA ニュース

ハイライト：
・WEA 宣教会議報告
・宣教フォーラム秋田報告
・日本青年伝道会議に向けて

不穏な混迷の時代の中に神の視点をもとめて

JEA 総主事
品川謙一

「天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える。そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。」

イザヤ書 55 章 9 ～ 11 節

昨年 11 月初旬、ドイツ、シュツットガルト市郊外で開催された WEA（世界福音同盟）宣教委員会主催のドイツ世界宣教会議 2011 に出席しました (詳細は 2 ページの報告参照)。そこでテーマとなった "God's Disturbing Mission" は、世界的な政治、経済、社会の混迷と不安定化、自然災害の多発など、私たち人間の目から見て、"Disturbing" な (不穏な、心をかき乱す) 状況の中で、宣教の主体であられる神様の視点をもとめ、私たち自身のあり方や宣教観、教会観を問い直す内容でした。その会議期間中のディボーションで与えられたのが上記の御言葉です。

目の前の苦しみや混乱が大きいほど、私たちの思いはそれにとらわれてしまうものです。しかし主なる神様の思いは、私たちの思いをこえて「高く」、すべてを見通しておられます。今の状況が私たちにとって "Disturbing" なのは、「高い」神様の思いと私たちの思いがかけ離れているからではないだろうか。いや実は神様にとって一番 "Disturbing" であり心痛めることは、そのような混迷の中から神様ご自身をもとめないで、自分たちの痛みや困難だけにとらわれている私たち人間の状態ではないだろうか。そのような気づきの中で、悔い改めへと導かれました。

今回の会議では、アジア、アフリカ、中南米など、いわゆる南側世界の 30 代、40 代の若い世代のリーダーたちから多くの発題がなされました。世界宣教のうねりは大きく南側世界に移りつつあります。イラン、タジキスタンなどイスラム圏の国々や、中央アフリカ諸国などからリバイバルの報告がありました。アジアでもスリランカやインドネシア、中国などで教勢が伸びています。世界的混迷の時代の中で、主なる神様は私たち人間の思いとは異なるところで新たな芽を出させ、確かに宣教の業を進めておられるのです。

日本では、昨年の東日本大震災によって大きな苦しみを経験しましたが、キリスト教会・諸団体は、その人口比率からすると非常に大きな救援・支援活動における貢献をしてきたと思います。「支援と引き換えの伝道」ではなく、ただ

（P.8 に続く）

目 次

《巻頭言》 1
JEA 活動報告
国際関係報告 2
流れのほとりで 3-4
特別啓示と一般啓示 5
宣教ﾌｫｰﾗﾑ秋田報告 6
青年伝道会議に向けて 7
総務局報告 8
＜別刷＞ 援助協力ﾆｭｰｽ

JEA 活動報告（AEA, WEA 関連を含む）

宣教フォーラム青森開催

2011 年 7 月 18 日(月)～ 19 日(火)、青森県浅虫温泉・椿館にて、2011 宣教フォーラム青森 (青森県キリスト教会会議主催、JEA 宣教委員会共催) が開催され、青森県各地の教職者とその家族など 90 余名が参加した。JCE5 に参加した 4 名の教職者の呼びかけから始まったもので、全青森を網羅する形での宣教フォーラム開催は初めて。原田憲夫・前 JEA 理事長による講演、東日本大震災救援チーム (3.11 青森教会ネットワーク) の報告、青森宣教の課題と展望、交流の夕べなどのプログラムを通して、青森県内の聖書信仰に立つ諸教会の協力関係を深める集会となった。地域の超教派グループによる主催という意味でも意義ある開催であった。

宣教フォーラム秋田開催

2011 年 10 月 31 日 (月) ～ 11 月 1 日 (火)、秋田県仙北市・たざわこ芸術村にて、宣教フォーラム秋田 (JEA 宣教委員会主催、秋田県伝道協力会など共催) が開催され、60 余名が参加した。「新たな危機と宣教～日本の深層を探る」をテーマに、丸屋真也師による主題講演、東日本大震災の救援・復興活動の報告、秋田地域の特色から考える地方伝道の課題、5 つの分科会など、豊かな内容をもった集会であった (詳細は 6 ページの報告を参照)。

AEA ソウル宣教会議に参加

2011 年 9 月 26 日～ 30 日、韓国ソウル市郊外にて AEA(アジア福音同盟) 主催の宣教会議が開催され、主にアジア地域の 21 ヵ国から 75 名が出席した。JEA からは、植木英次国際渉外室長と品川謙一総主事が参加。アジア各国におけるキリスト教会と他宗教の隣人たち (仏教、イスラム教など) との関わりをテーマにした会合。東日本大震災救援活動への祈りと支援に対して感謝を表すと共にアジアの福音的諸教会との連帯を確認した。

WEA ドイツ宣教会議に参加

2011 年 11 月 6 日 (日) ～ 11 日 (金)、ドイツ・シュツットガルト市郊外にて、WEA(世界福音同盟) 宣教委員会主催の宣教会議が開催され、世界 50 ヵ国から 230 名が出席した。JEA からは、末松隆太郎宣教委員長、松崎ひかり宣教委員、品川謙一総主事が参加した。

"God's Disturbing Mission" のテーマのもと、世界的な政治、経済、社会の不安定化、自然災害の多発など、人間の目から見て "Disturbing"(不穏な、心乱す) 状況の中で、神ご自身の視点からもう一度ものごとを見直し、宣教、教会、個人の各レベルで、それぞれの在り方を再定義するというチャレンジに満ちた会合であった。

アフリカ、中南米、アジアなど南側世界出身の 30 代、40 代の若いリーダーたちが多くの発題を担当し、Capetown 2010 同様のテーブルグループでのディスカッションを中心にするなど、世界宣教の流れの変化を感じさせるプログラム構成。またイスラム圏での宣教の課題から生まれた WEA/WCC/ ｶﾄﾘｯｸの共同文書 "Christian Witness in a Multi-Religious World" は世界のキリスト教諸団体の新しい協力関係の空気を感じさせるものだった。

東日本大震災からの救援・復興活動への祈りと支援に感謝を表し、現在の状況について短いプレゼンテーションを行った。個人的な共感をもってくださる方たちがいる一方、宣教の最前線として日本をとらえる見方は少なく、日本からの問題提起、発信が足りないことを痛感した。

日本の教会、宣教の閉塞感の底流にはグローバル化や多元主義など世界と共通の課題があり、少子高齢化などでは最前線にいる。日本宣教の課題を世界のテーブルに発信し、共通の課題をもつ国々との連帯、協力を具体化していくことが必要である。また震災からの復興の歩みの中から、日本宣教の新たなうねりを生み出していくチャレンジが与えられている。

宣教フォーラム青森での
パネルディスカッション

アジア福音同盟主催のソウル宣教会議

新しい WEA 宣教委員長
PeterTarantal 師（南アフリカ）

テーブルグループでの
ディスカッション

ドイツ、リーベンゼラ・ミッションの
世界宣教ディレクター、アウフ師 (左)
を訪ね、職員・神学生向けの礼拝で
日本の現状を報告し、祈りを合わせた。

流れのほとりで

「流れのほとりに植えられた木」

JEA 女性委員会　担当理事　金本 悟

詩編 1：1～3

私は、今回理事に再選出されるなら「女性委員会の担当理事」にさせていただきたいと祈っていました。

「流れのほとりで」の原稿依頼を受けて、JEA という流れの豊かさを再認識しました。高校生の時に HiBA のキャンプで救われ、学生時代には KGK を通して信仰を養われました。それ以来、JEA の創設者の諸先生や祈りの友のお世話になりました。三森春生先生に誘われ、宣教委員会に加わってからは、宣教フォーラムや、女性委員会および救済委員会との合同フォーラム、「すっと青山」担当理事、青年委員会の立ち上げなどを経験させていただきました。その経験の中で、JEA という流れには、豊かな水が流れており、私が信仰生活において渇きを覚え「だれでも渇いているなら、いつもわたしのもとに来て、いつも飲んでいなさい (ヨハネ福音書 7:37)。」と語られるイエス様の声を聞く時には、JEA に多くの祈りの友がいて背後で祈ってくださっていることを感じ取りながら信仰生活を継続して来ました。

2010年にケープタウンで第三回ローザンヌ会議が開かれました。その場で、気づかされたことの一つが、日本の教会において女性の働き場が充分に与えられていないことです。神様がこのことを不正義だと涙していることに気づかされたのです。イエス様の働きが JEA をとおしてさらに豊かに日本の土壌を潤して、そこに生かされている男性も女性も、年を取った者も若い者も、神の正義と神の愛とを豊かに経験しつつ、神の平和を生き抜き、神の国に生かされつつ神の国の広がりに貢献できるようにと祈っています。

私たちは、そのような大きな流れのほとり（詩編1：1～3）に植えられていることを神様に感謝します。

≪サンデーランチ≫

三橋香代子

私が20才の時、短期宣教師としてパプア・ニューギニアへ行っていました。その時にホームステイさせてくださった宣教師夫人に教わった初めての手作りケーキでした。簡単で美味しい思い出の味です。それ以来、家で、教会で、バザーで、と私の一番のケーキ・レシピとなりました。

❤チョコレートケーキ

【材料】卵 1コ、ココア 1/ 2カップ、サラダ油 or ショートニング 1/ 2カップ、小麦粉 1と1/ 2カップ、ベーキングパウダー 1ティースプーン、重曹 1ティースプーン、サワーミルク or 牛乳（ティースプーン1酢含）1/ 2カップ、バニラエッセンス 1ティースプーン、砂糖 1カップ、塩 1/ 4ティースプーン、お湯 1/ 2カップ

【作り方】

① ボールの中に順番に入れていく（順番が大切です!）
② 全部入れたら、泡立て器でダマがなくなるまで混ぜる
③ ケーキ皿にサラダ油を薄く塗っておく
④ 温めておいたオーブン180℃で30分焼く。串で真ん中を刺してみて生地がついてこなければ出来上がり

いのちのパン　―時の意味―

丸山 園子

「献酌官長はヨセフのことを思い出さず、彼のことを忘れてしまった。それから二年の後、パロは夢を見た。」

（創世記 40章23節、41章1節）

ヨセフは献酌官長がパロに進言してくれるのをどれほど期待して待ちわびていたことでしょうか。幼き日に見た不思議な夢、兄弟たちの仕打ち、ポティファル家での不条理に耐え監獄で手にした解放のチャンス。これは神様の導きに違いないと、献酌官長に頼みこみました。「私を、私に、私のことを」（40・14）この局面をなんとかしようと、力が入っています。神様の約束を信頼して待っているはずなのに、いつの間にか神様以外の状況・人・自分に心を移してしまう半端さ。

献酌官長はヨセフを忘れましたが、神様はヨセフを知っておられ、ヨセフを引き上げてくださいました。それが2年後、神様の時でした。パロの前に立ったヨセフの発言。「私ではありません。神が」（41・16）全幅の信仰告白をささげる信仰者に整えられました。

女性の学び『性差によるのか賜物によるのか』No.12 ~応答の実行〔1〕

クリスチャン女性たちは、非常に明確な召しを経験しているにもかかわらず、キリスト教会の中では、女性の賜物や教育、そして主の働きの場で行使されるリーダーシップの技術に対して、信用も評価も与えられないことの意味を探ろうとして、動揺、チャレンジ、フラストレーションの入り混じった感情を経験しています。

クリスチャンの共同体は、「御国」の現実、私たちがいつか経験するその終末の共同体、の模範を示すべきです。

神様に応答して生きるために、型にはまった男女像からどのように人々を解放することができるでしょうか。私たちはどのようにして態度、決まり、そして習慣を変えることができるでしょうか。

変化をもたらす人になるためのステップは次のとおりです。

A. 幻（ビジョン）を展開する。
B. その幻（ビジョン）に関連する信条を定義する。
C. 現実を直視する。
D. 現実から幻（ビジョン）に移行するための目標を設定する。
E. 入手可能な資源を決定する。
F. 行動を決定する。
G. それを実行し、評価する。

A. 幻（ビジョン）を展開する

聖霊が、信者の共同体の中で生きるようにと男女を招き出し、頭であるキリストに在って互いを建て上げるために、男性と女性に賜物をお与えになったというメッセージに一番ふさわしい構造とはどのようなものでしょうか。

教会が賜物を中心にして形成されたら、このようなものになるでしょう。

・男女が教会の営みを運営し、決定機関に平等に参与する共同体
・男女共に教会会議の委員として、賜物を行使している共同体
・男女共に、しばしば分裂をもたらす人間の指導者の知恵に頼るのではなく、一致をもたらす聖霊の知恵を求める共同体
・すべての人が、教育、説教、異言、預言、運営、奉仕の行為、牧会などを通して建て上げられるために、男女の機能、立場、そして奉仕が性別に基づくのではなく、賜物と人格に基づいている共同体
・男女共に、キリストのからだである教会の頭はキリストであることを理解している共同体
・互いに従うことが実践されている共同体

新女性委員紹介

エヴァンジェリカル・コングリゲーショナル・チャーチ
相模原グレース・チャペル　阿部恵子

私は教会において伝道師として伝道、牧会に携わっています。奉仕の内容は教会学校、子育て中のお母さんの会をはじめ様々ですが、特に子どもとその両親への伝道に使命を感じています。5年ほど前から未就園児の保育プログラム「こひつじ園」を始め、孫のような幼子たちに神の愛と福音を伝える機会が与えられ、さらにお母さんたちも定期的にみことばに触れる時をもっています。

今回、女性委員にとお話をいただき、躊躇する思いはありましたが、夫に相談しましたところ、「かすみ草の会代表と思えば」と言われ、それならとお受けすることができました。「かすみ草の会」は、相模原の教会に仕える女性の働き人たちが教団、教派を越えてキリストの名のもとに集まり、互いの働きや時にはプライベートな悩みを分かち合い祈る交わりです。

女性ならではの視点と賜物が用いられ、人の土台を形成する家庭に、キリストの救いといやしが届きますようにと祈りつつ女性委員会で奉仕させていただきます。

日本福音自由教会協議会
越谷福音自由教会　三橋香代子

新たにJEA女性委員に加えていただきました三橋香代子です。家族は夫、2人の娘とチワワのハッピーです。

出身は茨城県日立市です。大学在学中に1年間大学を休学し、短期宣教師としてパプア・ニューギニアへ行きました。その時、病いにかかり寝たきりになりましたが、その中で「今までは私の人生は私のために歩んできましたが、病いがいやされた後、私の人生をこれからは主のためにお捧げして歩もう」と献身致しました。

「私の名を伝える器として私が選んだ者である（使徒9：15口語訳）」という召命の御言葉が与えられ、同じ大学のクリスチャンの友人で共に学内伝道のために歩んできた主人と結婚し、T.C.Cに編入して学びました。

神学校卒業後、2年間奉仕教会であった越谷福音自由教会の牧師夫人・主事として牧会。主に求道者クラス・中高科・親子クラブ（幼児）で奉仕。今年で23年となりました。

ライフワークとして、牧師夫人の方々の働きと存在、心の痛みや労苦に寄り添って共に歩みたいと願っています。JEA女性委員として、委員の皆様と心を合わせて、素晴らしい女性の働きに、女性でなければできないことに、また男性や青年と協力して日本の内外で主に仕えていけたら嬉しいです。

第10回 JEA 心のオアシスリトリートのお知らせ

テーマ：「生ける望みを抱いて」　講師：佐藤彰師（福島第一聖書バプテスト教会牧師）
日　時：2012年6月25日（月）～27日（水）
会　場：福島県耶麻郡猪苗代町「ホテル　リステル猪苗代」
主　催：JEA女性委員会

＊詳細は後日お知らせいたします。どなたでもご参加ください。

「特別啓示と一般啓示 ～『ゲノムと聖書』をめぐって～」稲垣久和氏レクチャー報告

JEA 神学委員　関野祐二

2010年8月の神学委員会では、フランシス・コリンズ著「ゲノムと聖書」（NTT出版、2008年）を足がかりに、自然科学とキリスト教信仰の関係性を考察しました。これを受け、2011年1月の委員会に東京基督教大学教授・稲垣久和氏をお招きし、「ゲノムと聖書」の評価を含め、広く科学と宗教に関する約2時間半のレクチャーをしていただきましたので、報告します。少人数の委員会では惜しい、内容豊富な講義でした。

理論物理学出身の稲垣氏は1981年、33歳で「進化論を斬る」（いのちのことば社）を出版。科学的方法論の観点から進化論を検証し、代替案として「生物変換モデル」（生命のスープから生物変換によりさまざまな種が出現）を提唱します。これは三次元情報空間における数学的理論で、四次元の現実世界はプロの科学者が担当するゆえ、進化論に関してはこれで決着をつけ、「自然神学」という新たなテーマに移行したとのこと。すなわち、啓示神学とは何か、一般啓示を含めた創造啓示、広義の神学、神の働きを追求する方向性です。

「進化論を斬る」以後、稲垣氏はオランダに留学し、アブラハム・カイパーの神学を研究します。神学全体を「特別啓示」と「一般啓示（自然啓示、創造啓示）」に分け、その枠組みで考えるアウグスティヌス～カルヴァンの伝統であり、広義の神学（キリスト教哲学）です。自然神学は、自然という書物の中に、数学という言語を用いて神のみこころを探る方法論で、これが近代科学（自然哲学）の成立へと結びつき、「キリスト教文明」が形成されました。公共の場に宗教があるヨーロッパでは、まさに文明とキリスト教が絡み合っており、その啓示論には自然、歴史、人間の良心も含まれます。そこには、特別啓示のみを強調し聖書ですべてを説明する福音派の、ある種の傲慢さはありません。ですから福音派は、聖書解釈学を尊重するとともに、「自然」の解釈を含めた包括的な神学体系を作る必要がある、と稲垣氏は主張します。理数系出身のアリスター・マクグラスは全3巻の「科学的神学」（A Scientific Theology 3 vols, 2003、要約は「神の科学」として教文館より邦訳済み）を出版しましたが、福音派が科学とキリスト教というテーマを学ぶには、マクグラスの「科学と宗教」（教文館、2003年）から始めるのがよいとの勧めをいただきました（注：2011年4月の神学委員会で、本書の学習会をしました）。

さて、ヨーロッパには歴史的に、ペイガニズム（ギリシャ・ローマ的異教主義）、ローマニズム（中世トマス的自然と恩恵の二元論）、イスラミズム（イスラム教）、カルヴィニズム（創造と贖罪）という四つの世界観があり、アブラハム・カイパーは「カルヴィニズム講義」（1899年。邦訳は「カルヴィニズム」，聖山社，1988年）で、政治、経済、文明の多様性に対応する世界観としてのカルヴィニズムを強調します。一方稲垣氏は、日本における聖書的世界観への反定立（antithesis）としてジャパニズム（日本主義）を定義し、ここから日本思想の研究を開始、公共哲学の研究へと進みました。その根底には、カイパーの強調する「宗教的根本動因」、すなわち人間の思惟と思想と行動、文化や社会制度がある種の宗教的動因に突き動かされる（宗教的動因こそ文明を動かす）という考え方があります。

9･11以降、宗教が公共の場で話題とされるようになりましたが（稲垣，「宗教と公共哲学」，東大出版会，2004年）、経済・宗教・科学などを包括的に公共の場で議論するのが公共哲学です。人間は宗教的動物であり、その宗教性が上（絶対者）に向くか下（人間）に向くかにより、思想と行動、文明の型が決まるので、広く公共の場で宗教が議論されるべき、と稲垣氏は主張します。この点から、靖国神社問題は政教分離を超えた公共哲学の課題となります（「靖国神社解放論」，光文社，2006年）。結論として、自然とは何か、一般啓示の神学的ポジショニングとしての「自然神学の位置づけ」が包括的テーマであり、科学と宗教の問題はその一部分を成す、と整理されましょう。

以上を踏まえ、稲垣氏は「ゲノムと聖書」を全般的によく書けている書、と評価します。著者コリンズのアプローチは、トマスの神存在証明に照らせば第四の「道徳からの論証」で（「科学と宗教」96、102頁）、米国に特徴的なID論（知的計画説）は第五の「目的からの論証」です（注：ID論はペイリーの自然神学（時計と時計職人）に似た、美しい自然や生物の精密な構造にも知的設計者がいたとする類比の議論。宗教を公共の場から締め出すリベラリズム社会の落とし子で、ここから公共の福祉は発展しにくい）。コリンズは信仰者／科学者の見解を道徳的・倫理的に表現するヒューマニストゆえ、共感を覚えると稲垣氏は語ります。コリンズも述べているように（224頁）、科学とは方法論的自然主義で、数学と実験によりデータを蓄積して数量化し分析する自然探求の方法論ですが、これが自然探求のすべてではなく、歌や詩、直観、霊性などの方法も可能です。

他方、稲垣氏はコリンズの提唱するバイオロゴス（有神論的進化論）の前提に理神論的傾向を見、まだ解明されていない生命起源のメカニズムに進化理論を適用する問題点を指摘します。科学とは厳密な自然探求の方法論ゆえ信じる対象ではなく、反証可能性があり、わからないことはわからないままにすべきなのです。ポパーが見抜いたように、ダーウィンの自然選択説には目的因を作用因に還元する擬人化（「自然が選択する」）があります。

しかし稲垣氏は、人間とチンパンジーのDNAが大差なくとも人間には独自の道徳律や神への憧憬があり、それはDNAで説明不可能とのコリンズの主張（135頁）に賛意を示し（「宗教と公共哲学」22−25頁）、脳からいかにして心が生じるかを「創発的解釈学」という哲学理論で展開します。科学と神学という異なる領域をつなぎ、相互対話を可能とするのが哲学だからです。遺伝学者コリンズに哲学者の資質を期待するのは無理としても、表現論としての哲学の必要性は、聖書研究に特化しやすい福音派の課題でしょう。

科学を抜きには生きられない現代にあって、自然神学、公共哲学、創発的解釈学など、稲垣ワールドから発する鍵語を深め、哲学を介した科学とキリスト教の包括的理解へとさらに前進したいと願うものです。

新たな危機と宣教
日本の深層を探る
2011 年度　JEA 宣教フォーラム秋田　報告

JEA 宣教委員　寺田文雄

2011 年 10 月 31 日(月)～11 月 1 日(火)、秋田県仙北市の「たざわこ芸術村」にて郷土色豊かな宣教フォーラムが開かれました。東日本大震災（3･11）による地震・津波・原発放射能汚染という未曾有の大災害に直面し、復興に向かう状況下での開催となりました。全国から 60 余名が参加し、活発な発題・討議・意見交換がありました。今回は、2010 年の名古屋でのフォーラムに続いての地方開催となり、「新たな危機と宣教～日本の深層を探る」をテーマに、日本宣教の課題に地方の視点からどう取り組むかを軸に企画されたものでした。

初日の午後は、「東日本大震災からの救援・復興活動の現状」について 5 団体から発表がありました。

① DRC ネット（東日本大震災救援ｷﾘｽﾄ者連絡会）－46 登録団体の連絡会として支援の輪を広げている働きと共に支援から宣教に移行している状況が紹介されました。

②クラッシュ・ジャパン － 日本人と 20 カ国からの支援者が地域教会と協力した働きや国際性、2 年間に限定した支援活動であることが紹介されました。

③日本キリスト合同教会 － 海外からの支援物資により活動が始まったことや他団体との協力の事例が紹介されました。

④ﾜｰﾙﾄﾞ・ﾋﾞｼﾞｮﾝ － 専門援助団体として一般社会にインパクトを与える働きを目指し、仮設住宅・子供・学校支援を続けていること等が証しされました。

⑤ JEA － 被災教会へ訪問と見舞金分配、苦境にある 7 教会の教会会計への支援、建物の再建支援の計画などが報告されました。

続いては地元秋田の課題も含めた5つの分科会があり、①「雪国の特徴と宣教」では、ユニークな歴史から始まり、キリスト教への閉鎖性や宣教論が提起がされました。②「超高齢化社会における課題とその対応」では、高齢化率や自殺率全国一位の秋田県の現状、認知症への対応、介護期は最後の宣教のチャンスであることが語られました。③「心のうめきに向き合う」では、臨床心理学博士であり牧師である丸屋真也師が専門家の立場からの発題。④「デイアスポラ宣教協力」では、地球規模の現象であるデイアスポラ現象について現在全世界人口の3%（約2億人）が自分の出生地以外の国で生きているとの調査結果や国際教養大学での留学生フォローアップと東北のリターニーのユニークな働きが紹介されました。⑤「阪神大震災から東日本大震災へ、そして新たなる協力のあり方を求めて」では、ホーリネス教団に於いてどの様に危機対応意識と危機対応能力を共有し、それが東日本大震災への対応につながったとの発表がされました。

夕食後は、「秋田地域の持味」と題して ①「秋田と子供たち」②「雪国の秋田」③「秋田の高齢者」④「秋田県伝道協力」についての発題や「秋田の歌と踊り」があり、秋田の宣教文脈にふれるひと時でした。

2日目は、丸屋真也師による講演「新たな危機と宣教」があり、宣教困難な終わりの時代の特徴（Ⅱテモテ 3 章）と宣教の主体としての教会の課題等について語られました。

その後は、第5回日本伝道会議（JCE5）のビデオ紹介と JCE6 への展望が語られました。また、片桐師がウエルカム礼拝、安藤 JEA 理事長が初日夜、末松宣教委員長が最後の出発礼拝にて、それぞれ持ち味のある語り口でみ言葉の御用をして下さいました。

今回のフォーラムを通して、東日本大震災（3･11）という危機に遭遇する中でキリストにある支援ネットワークがどのように生まれ、主の導きの中で互いに絆を深め協力して被災支援を進めてきたか、今後の展望も含めて共有できたことは大きな前進であったと言えます。これからも 2016 年の JCE6 に向け各地で宣教フォーラムを開催していく予定です。そのためにお祈りとご協力をお願い致します。

ウェルカム礼拝で語る片桐師

全国から 60 余名が参加した

秋田方言で歌う金田師

丸屋真也師による講演

ディアスポラ宣教協力分科会

日本青年伝道会議開催に向けて

JEA 青年委員長・日本青年伝道会議実行委員長
三橋与志哉

第1回目の日本青年伝道会議を 2012 年9月 17 日（月・祝）～ 19 日(水)に、国立オリンピック記念青少年総合センター (代々木オリンピックセンター) において、JEA青年委員会主催で開催することとなりました。

青年プロジェクトから生まれた働き

第5回日本伝道会議が札幌で行われました。その中で行われた青年プロジェクトには、160 名を超える方々が参加してくださいました。そこには、教職や宣教団体スタッフだけではなく、多くの青年たちが集いました。プロジェクトの中で、青年伝道に特化した話し合いを集中してもちたいという声が上がり、数年中に日本青年伝道会議を行うということを決議しました。それを受けて、JEA青年委員会が話し合いを進め、2012 年9月に開催することを 2011 年6月のJEA総会に提案し承認されました。

青年宣教の急務

「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。」（伝道者の書 12：1）とあるように、青年宣教は何よりも聖書的な視点からみて強調されるものです。また、教会においては、少子高齢化に伴う青少年の減少、献身者不足による無牧教会の増加などの危機があり、青年宣教が急務となっています。このようなことからも、日本の福音派が青年宣教に焦点をあてていくことは必然であると思われます。

青年宣教のビジョンと協力

この会議の午前中には、み言葉から教えられ、歴史の中に働かれる主に目を向ける時をもちます。また、午後には、分科会がもたれ、様々な青年宣教の働きや方策、青年宣教のモデルが紹介されます。これらのことを通して、具体的な青年宣教へのビジョンが与えられ、そのことの実現に向けての様々な協力が生まれることを目指しています。

青年への献身のチャレンジ

2003 年に世界宣教青年大会「すっと青山」が開催され 2000 人の青年たちが青山学院講堂に集まりました。また、「すっとKANTO」「すっとエズラ」と青年大会が行われ、神様から豊かな取り扱いをいただきました。今回も、夜の集会では、700 名規模の青年大会を行い、青年への献身のチャレンジがなされます。JEA青年委員会の目指しているものは、青年による青年宣教です。ここから、主の宣教の召しに応答し、献身する者が起こされることを願っています。

日本青年伝道会議の実現と祝福のために

①この会議のために、是非お祈りください。
②日本青年伝道会議の開催を、広くお知らせください。
③是非、会議に参加してください。会議には、教職も青年のどちらも参加していただきたいと願っています。夜の青年宣教大会は、青年クリスチャン対象です
④必要のために、おささげください。少しでも参加費を下げ、青年たちも参加しやすくしたいと思っています。

★最新情報は「日本青年伝道会議」で web 検索してください。

テーマ：Reach The Young! ～分かち合おう、青年伝道の Vision ～

プログラム

9/17（月・祝）	9/18（火）	9/19（水）
聖書講演 「聖書から見る青年宣教」 郷家一二三師	聖書講演 「聖書から見る青年宣教」 郷家一二三師	聖書講演 「歴史から見る日本の青年宣教」 山口陽一師
分科会	分科会	分科会
青年大会	青年大会	

目　的　① 青年宣教のビジョンを分かち合う（青年宣教の具体的な方策も含めて）
② ネットワーク作りと具体的な協力の開始（第 6 回日本伝道会議につながる動き）
③ 献身へのチャレンジ（青年大会）

対　象：教職、宣教団体スタッフ、信徒

略　称：NSD = Nihon Seinen Dendoukaigi

国立オリンピック記念青少年総合センター

（P.1 より続き）

主イエスの愛によって動かされ、苦難の中にある人々に寄り添い、共に生きる者として地道な支援が続けられています。そして、そのような支援活動で培われた人間関係を通して福音は確かに拡がり、人々が救われ、地域社会と教会の新たな関わりも生まれてきています。支援を受けた人が救われるだけでなく、支援をしにボランティアとして行った人が救われるケースも多くあります。昨年 11 月末から 12 月にかけて開催された JEMA(日本福音宣教師団) の会合、DRC ネット (東日本大震災救援キリスト者連絡会) の教会ネットワーク会議では、それぞれの地域ごとの状況や課題は異なるものの、上記のような新たな福音の拡がりが報告されていました。

「わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる」と主は言われます。この不穏な混迷の時代の中で、主なる神様は確かにご計画をおもちであり、私たちの目に混迷と映る状況のただ中で既に御業を行っておられるのです。震災からの救援・支援活動の中でも、多くの混乱があり、噂や誤解によって協力が妨げられたり、傷つけ合ってしまう過ちもあったと思います。しかし、そのような人間の弱さと破綻のただ中で、主の御業は確かに進められていると信じます。

1 月下旬、東京に雪が降りました。翌朝、凍った歩道を歩きながら、イザヤ 55:10 の御言葉「雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える」を思い返しました。そこで気づかされたことは、アスファルトやコンクリートの上に降った雪は地面にしみ込まないということでした。「雨・雪が降る＞地を潤す＞芽が出る＞種蒔く者に種を与える」という神様の約束のサイクルの中で、私たちの心がかたくななため、あるいは他のことに思いを奪われて無関心なために、主の御言葉が心にしみ込まず、「地を潤す」ことができないとしたら、何と残念なことでしょうか。アスファルトのような硬い心ではなく、やわらかい畑の土のような心で、主の御言葉を素直に聴きたいと思わされました。

"God's Disturbing Mission" - 神様の不穏な・心をかき乱す宣教 - は、世界中で、ここ日本でも日々進められています。その御業に共に参画していくために、まず私たちは神様の視点をもとめていきたいと願います。それぞれが置かれた場所で、日々やわらかな心で主の御声に耳を傾け、行動すると共に、主なる神様の「高い思い」を知るために、他の地域や領域で主に仕えている人々と連帯し、ビジョンを分かち合い共有していきたいと思います。ひとつ一つの働きは小さくても、集まってお互いの証しを分かち合うときに、大きなジグソーパズルのように神様の視点から描こうとしている絵が見えてくるのではないでしょうか。JEA のような団体にはそのような連帯と共有の場を提供する役割が今もとめられていると感じています。

ドイツの宣教会議で聞いた恵みと証しは、同じ主を信じる私にとって、日本の混迷した状況の中でも同じ主が働かれていることを確信させてくれました。震災からの救援・復興に関わる中で、それぞれの地域で起こっている主の御業を聞く時に、人間の思いをこえて確かに神様が働かれていることを知り励まされます。このような先行きの見えない不穏な混迷した時代だからこそ、ただ一つ確かなもの＝主なる神様の御心をもとめ、私たちに託された主の御業を共に担っていきましょう。

総務局報告

◆今回の JEA ニュースでは、ささやかな復興支援として東日本大震災で被災した気仙沼市の印刷社に、援助協力ニュース (別刷り) 部分の印刷をお願いしました。

◆ JEA のウェブサイト (http://www.jeanet.org/) は 9 月下旬にリニューアルしました。まだ工事中の部分が多いのですが、徐々に充実させていきたいと願っていますので、お祈りください。

◆ 2012 年度の JEA 総会は、6 月 4 日 (月) ～ 6 日 (水)、静岡県掛川市のヤマハリゾート・つま恋で開催予定です。

日本福音同盟

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

JEA ニュース 41 号　発行・日本福音同盟 (JEA)
発行者・安藤能成　編集者・品川謙一
〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1OCC#615
TEL: 03-3295-1765　FAX: 03-3295-1933
E-mail: adminoffice@jeanet.org　http://www.jeanet.org/